

## 特進クラスにおけるクラス経営を振り返って

教諭 長津 智也

### 1 3年間の特進クラス担任

私はこの3年間、持ち上がりで本校の特進クラスの担任をしてきた。本校普通科（各学年4クラス）では例年、1年次に特進クラスが1クラスあり、2年次から文理選択によって文系3クラスと理系1クラスに分かれる。そして理系クラスは2年次当初、生徒全員が進学希望であることから特進クラスという位置づけである。また、私が担当している数学においてはクラスの約7割の生徒が宿題と授業の復習に取り組む習慣が身に付いており、学習習慣の到達度はA3（学習習慣良好レベル）で、学力の到達度はB1（国公立・中堅私立大挑戦レベル）であった（ベネッセのスタディーサポート2017年度2年生第2回の結果）。これから特進クラスにおける私のクラス経営について色々と振り返ってみようと思う。

### 2 クラス全体としての進路指導の方針と具体例及び雰囲気作り

今年度当初、学年会の中で国公立大学合格者を5名と目標設定した。クラスには国公立大学受験希望者が5名以上おり、2年次の春休み中の春期課外で本校の進路指導部長が国公立大学受験に向けての心構えなどを指導していた。その一方で2年次3月に公務員受験（かすみがうら市の消防）を志す生徒が現れたため、進路指導部長に相談したところ、専門学校に進学し土浦市の消防に就職内定を得た本校卒業生に來校してもらうことができた。そこで公務員受験希望の生徒に直接、受験に関するアドバイスをしてもらった。生徒たちが各自の進路研究を深めていく中で理系特進クラスであるものの、大学だけでなく、専門学校、公務員、就職などの多様な進路を希望するようになった。そこでクラス担任として生徒全員が納得できる進路実現を果たすためのサポートをしようと考えたのである。

私は前任校で曲がり形にもクラス担任や生徒指導部の経験をしてきた。これまでの研修の中で進路指導は日々の生活指導・生徒指導から始まるということも教わった。そのようなことから特進クラスの担任としてまずは落ち着いた学習環境を整えることを最優先に考え、生徒たちにクラスの目標・ルール・マナーを守らせるように指導した。例えば、各自1年間皆勤（欠席・遅刻・早退ゼロ）、クラス全員「オールゼロ」を目標にした。3年次は受験の年度であるため体調管理が重要である。結局、クラス34名中13名が1年間皆勤であった。またホームルームの教室の本棚に数学の参考書や赤本などを置き、「ホームルームの教室はスマホなどのゲームを禁止にして勉強部屋にしよう」、「6時間目終了後の掃除終了後、帰りのSHRの時間までホームルームの教室で静かに自習をしよう」などと言ってホームルームの教室でのルールやマナーを守らせた。さらに9月頃から推薦入試に向けて各自の進路決定後も「3月まで国公立大学の受験は終わらないので、これから受験が控えている同じクラスの仲間に気遣いができるように」と言って周囲のサポートをさせた。以上のような取り組みによって卒業まで落ち着いた学習環境の中で生徒たちの校内での学習習慣が形成できたのではないかと考えている。

### 3 模擬試験と課外

3年次には年10回の模擬試験を原則全員受験させた。ただし、公務員試験や就職試験などを受験する生徒たちは進路決定するまでは免除した。当然のことであるがサボる生徒はいなかったと思う。2年次の進研模試から個人成績表に志望校成績（合格可能性判定）が出てくる。2年次に生徒たちが知っている県内外の有名な大学は概ね厳しい判定であった。3年次にどのような進路にでも対応できるように学力を高めることが重要である。そこで模擬試験の事前・事後指導の一環として生徒たちには課外に継続的に参加させた。1年次より数学の課外では主に進研模試の過去問演習を実施してきた。3年次は例

年通り文系課外（中根先生が担当）と理系課外（私が担当）に分かれて実施した。理系数学の課外では課外の時間を延長して問題に多く取り組ませたこともあった。そのような中で模試を意識し真面目に取り組んできた生徒の得点は少しずつ上がってきた。2年次には生徒23名が11月進研模試（数学A）の全国偏差値50以上であった。特に校内順位が1位の生徒は県内順位が4位（2128人受験）となった。3年次には生徒15名が7月進研模試の全国偏差値50以上であった。特に数学Yの校内順位が1位の生徒は県内順位が59位（4239名受験、全国偏差値71.7）となり、県内の進学校から注目された。受験への意識づけのためには模試の得点力を高めることが重要である。そこで私は模擬試験の他に数学検定の1、2年次特進クラス全員受験もさせていたのである。数学検定の直前には過去問プリントを毎日配付し、課外や家庭学習で取り組ませた結果、3年間を通して3名が2級を取得、12名が準2級を取得した（今年度の3学年全体）。生徒たちの受検機会を増やし、検定取得と同時に基礎学力を高めることができたと思う。このような取り組みによって模擬試験の得点力を高めさせることができたと確信している。

#### 4 ホームルームの指導で参考にしたもの

私はベネッセハイスクールオンライン（高校の先生の課題解決をサポートする情報サイト）をこまめにチェックし、ホームルームでの指導の参考にしてきた。「学級通信」では毎月の学級通信を作成する際の素材や文書例が掲載されており、それをもとにして学級通信を生徒に配付した。また、「ホームルーム通信」の中の「クラス運営の強化書」には経験豊富な先生方による担当学年と時期に合わせた指導事例などが掲載されており、通知書の所見欄の生徒へのメッセージなどとして参考にした。この他、1年次からベネッセのセンター試験分析会など進路関係の出張に多く行かせていただいたことで、進路の最新情報をホームルームや授業、三者面談などの場面で生徒や保護者に伝達することができた。

#### 5 反省点および今後の課題など

1年次から生徒たちに日々の授業や定期考査を大切に、評定平均の4.3以上（調査書の学習成績概評のA段階）にこだわるように伝えてきた。今年度は担任しているホームルームの生徒たちとの定期的な面談や必要に応じた面談を何度も行いながら、きめ細かな進路指導・生徒指導ができた。その結果、生徒たちは落ち着いた生活を送り、進路を決定することができた。また、3年次6月の蒼星祭の男装女装コンテストにおいて優勝するなどしてクラスの団結力が深まり、行事ごとに生徒の成長を実感することもできた。

一方で3年次において志望理由書や小論文の指導開始時期が遅くなってしまった。小論文や課題文を書く前にそもそも本を読む習慣が受験までになかったため、本を読むこと自体が大変苦労した生徒が多いように感じた。そして生徒たちは文章もまともに書けないのである。読書習慣は現代文の読解力につながる。そして「現代文の力」すなわち大量の文章を素早く正確に読み取り要約する力は「数学力」、「英語力」などの総合力、入試の合格力につながる。生徒たちの現代文の強化のため、帰りのSHRなどで読書の時間を設けると良かったのではないかと思う。